

# 颯爽豪快 御柱新聞



## 第2号

平成27年  
12月15日発行



発行元：御柱実行委員会 発行責任者：手塚健治 作成編集：広報部

霧に煙る山中 神秘なる光景  
雨中の神事 『御柱総見立て』



雨と霧の中で行われた御柱神事

霧に煙る山中 神秘なる光景  
雨中の神事 『御柱総見立て』



祝いの木遣り唄が山中に響き渡る

去る、十一月八日午後、三年に渡る式年御柱大祭の最初の神事となる「御柱総見立て」が執り行われた。今回の御柱に選ばれた御神木が、嫁入りの「結納の儀」を済ませ、初めて氏子の前に披露された。当日はあいにくの雨模様となったが、四十人の神田の氏子たちが中山地区に集まり、神聖なる儀式を見守った。

最初に訪れたのは、中山は和泉、保福寺から徒歩十分ほどの第一位御柱。目通り二一〇cmの太さを誇る、スギの御神木だ。雨と共に深い霧に覆われた山中は、総見立ての神事にふさわしい幻想的な風景を作り出し、これから始まる御柱大祭に向けての期待度を高めた。宮司の祝詞（のりと）と共に、厳かに神事が始まる。柚役の草間啓介さんの手により「斧入れの儀」が行われ、御神木の証となる「大」の字が刻まれた。木遣長持保存会による祝いの木遣り唄が山中に響き渡ると、周囲からは大きな歓声と拍手が沸き起こった。

第四位御柱の御神木に「大」の字を刻み込んだ柚役の永野悟さんは「大勢の人に注目され、とても緊張したが、無事に役目を果たす事ができて良かった」と安堵の笑顔を見せた。



御神木に「大」の文字を刻む永野氏

## 紅白の品々に彩られ 「御柱 結納の儀」

総見立てが行われた同日午前、中山の公民館にて、関係者らによる「結納の儀」が行われた。「花嫁」に見立てられた御神木が、「仲人」の介添えにて、「育ての親」である献木者から、神田御柱実行委員長へと譲り受ける。人々の間で交わされる、まさしく「結納」の儀式である。

仲人の「幾久しく…」の口上と共に、水引に包まれた紅白の結納の品々が、御柱実行委員長の手塚健治さんより、献木者に納められた。実行委員会の役員方々と祝いの杯が交わされ、和やかな雰囲気の中で結納の儀は進められた。

祝宴の席には食事調理部会の方々による、趣向を凝らした祝膳料理が並び、儀式に華を添えた。

木遣長持保存会も結納の場に駆け付け、高らかな歌声と共に賑やかな長持ち行列が披露され、祝宴を盛り上げた。



結納の品々が献木者に贈られる

## 御柱を「食」で支える女性たち 「食事調理部会」に感謝

総見立ての神事が無事に終了したこの日、参加者や関係者による慰労会が夕刻より行われた。平成二十七年最大の神事となった、今日の総見立てを振り返りつつ、今後の御柱に向けての夢を語り合い、あちこちから賑やかな笑い声が聞こえていた。

そんな中、忘れてはならないのが、御柱行事を「食」の面から支えている、食事調理部会の女性陣の存在だ。過去の御柱大祭においても、数百人分のおにぎりや豚汁を作り、祝いに欠かせない赤飯や紅白餅を準備し、慰労会では様々な料理を並べ、氏子衆の空腹を満たす美味しい食事を提供してくれている。その団結力と行動力には頭の下がる思いだ。

雨天の総見立てとなったこの日、雨に濡れた氏子衆の身体を気遣い、温かい料理の数々が振る舞われた。何という心配りだろうか。先の長い御柱行事の中、彼女たちのお世話になる機会はまだまだ多い。ひたすらに感謝である。



食事調理部会の皆さん



心のこもった料理と共に今後の御柱への思いを語る